

# ATEM Newsletter



全国大会特集号

October, 2014

発行 映画英語教育学会  
住所 〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
4-3-12アルク高田馬場4F  
TEL 03-3365-0182  
FAX 03-3360-6364  
E-mail office@atem.org

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## ■会長挨拶

### A Whirlwind Tour of Our 20th Commemorative Convention in Hakata!

映画英語教育学会 会長  
倉田 誠 (京都外国語大学)  
ATEM President  
Makoto Kurata  
(Kyoto University of  
Foreign Studies)



Ladies and Gentlemen,

The 20th ATEM Commemorative National Convention was held at Fukuoka Jo Gakuin University on August 20th under the theme of "A Journey to Different Cultures through Media," and I would like to start off my front-page greetings by giving you the gist of what happened in Hakata at the height of summer.

The conference was kicked off by my humble opening address, which was immediately followed by inspiring words of congratulations from Dr. Lee Donghan, the STEM president. The convention was then enlivened with many thought-provoking academic speeches, symposiums, poster sessions, and publishers' exhibitions until it all worked up to a rousing special lecture bilingually delivered to us by Professor Brian Burke-Gaffney. Mr. Burke-Gaffney, who is well known in Kyushu as a college professor of English, a simultaneous interpreter, a TV actor, and a trained Zen Buddhist, dealt dexterously with his presentation theme of "Stereotypes in Cinema and Cross-Cultural Communication" which cut across the interests of many people in the audience. Despite the fact that this wonderful meeting of the minds took place on such a hot and humid day, so many movie aficionados / media-based research practitioners from various parts of Japan and Korea turned out to participate in our academic powwow to

enthusiastically discuss more effective ways to apply movies and other media to our classroom settings.

I would like to take the liberty of expressing my heartfelt gratitude to all of the ATEM Kyushu Chapter members who broke their backs trying to develop such a grand conference. My gratitude also goes to other ATEM members and directors, as without their generous support and devotion our 20th Commemorative Convention would not have been carried off so well. I would also like to mention that I was really honored to be able to take part in the thrilling whirlwind of our academic event and to be able to serve you as the ATEM president on such a special and auspicious occasion.

I am highly motivated now to usher even more ATEM members up onto our next scholastic stage where we will be in a quest for the development of quality movie / media-based papers and teaching materials. Let us continue to make the most of the many pieces of entertaining and enlightening pedagogical information which are carefully condensed into films. Let us also have our non-ATEM friends realize what a tremendous treasure house of cultural and linguistic data and wisdom are embedded in movies.

Last but by no means least, I would like to take this opportunity to remind you that in the morning of April 16, 2014 we were all shocked to watch on TV a large ferryboat capsize off the southern coast of South Korea and that around 300 people were killed in the tragic accident. I am deeply saddened to inform you at the same time that one of the victims was Mr. Nam Yoon Cheol, a STEM member and a Danwon High School teacher and that he bravely remained on the sinking ferryboat until the very last moment in order to rescue as many of his students as possible. Ladies and gentlemen, may I conclude my greetings by humbly suggesting that we salute the courage and self-sacrifice of Mr. Nam and pray that his soul and souls of many other victims rest in peace?

## 映画英語教育学会(ATEM)第20回全国大会

大会テーマ：映画で異文化を旅する

Conference Theme : A Journey to Different Cultures through Media

日時：2014年8月20日（水）午前9:00～午後5:20

会場：福岡女学院大学

### ■特別講演

“Stereotypes in Cinema and Cross-Cultural Communication”

BURKE-GAFFNEY Brian

(Nagasaki Institute of Applied Science)

今回の特別講演は、長崎総合科学大学人間環境学部教授の Brian Burke-Gaffney 先生によるもので、講演タイトルは“Stereotypes in Cinema and Cross-Cultural Communication (映画に見られるステレオタイプと異文化コミュニケーション)”であった。

長崎に造詣の深い Burke-Gaffney 先生は、1992年放送のNHK大河ドラマ『信長 KING OF ZIPANGU』に、ポルトガルの宣教師イエズス会巡察師バリニャーノ神父役で出演された。また、臨済宗入門得度を受けられ、「来庵」の僧名にて、1982年まで修行僧である雲水として京都の妙心寺専門道場等において9年間禅の修行を行われたという異色の経歴をお持ちである。



さて、今回の先生のご講演は、映画や風刺画などを紹介しながら人種差別の実態にも触れる、たいへん興味深い内容であった。先生はまず、古代中国の中華思想における支配民族による四方に居住していた異民族への蔑称である四夷（東夷、北狄、西戎、南蛮）のお話を取り上げた。そして、異文化理解を阻む大きな要素として挙げられる「自民族中心主義」と「(異文化に対する)ステレオタイプ化」についてお話しされた。

映画というものは、これらふたつの要素をある時は強め、ある時は弱める力を持っているという観点から、さらにはネイティブアメリカンなどの人種差別の状況を西部劇などの映画も例にとり、異文化理解を深めるための教育について示唆していただき、ひじょうに学ぶところが多かった。(高瀬文広)

### ■STEM特別発表

“Desperate Daters, Pep Talks, and Happily Ever After: Teaching with romcoms and the movie *He's Just Not That Into You*”

WERE Kevin

(Kookmin University)

Kevin Were 先生は、元 STEM 会長の Lee Jawon 先生が勤務する国民大学の教授だが、韓国の人気TVドラマ『シークレット・ガーデン』



(10-11)で、映画監督の Rian Jacson 役で登場された経験もお持ちだ。Were 先生は今回、“Desperate Daters, Pep Talks, and Happily Ever After: Teaching with romcoms and the movie *He's Just Not That Into You*”と題し発表された。

ロマンティック・コメディは、デートをしたり友人関係を形成したりといった、人生の若い時期を生きる大学生にとって、非常に興味もてるポピュラーな映画ジャンルである。Were 先生は『そんな彼なら捨てちゃえば?』(09)ほかいくつかの映画を紹介しながら、ジェンダー、人間関係、そして恋愛模様などが映し出されるこのジャンルで、様々なトピックをテーマにディスカッションできる例を提示された。

Were 先生の説明を通じ、ロマンティックなコメディ映画には、いかにクラスの中での言語活動を充実させ、様々な問題の議論を活発に行わせるメリットが多いか再認識した人も多かっただろう。今回の先生のご発表は、映画の SCRIPT、映画批評記事、映画のコラム、個々のキャラクターの異なる特質、そして映画の会話の中で出現するステレオタイプを通して、言語をアウトプットする指導法を見出すための良いチャンスとなった。

(高瀬文広)

## ■総会

大会当日の昼休み後、今年度の総会が開催された。まず倉田会長より、スライドを利用し、本学会の方針確認と今後の方向性についてお話があった（下記参照）。

### ～ 新ATEMの学術団体としての地固めへの提案 ～

- 旧ATEMからの学術的な土俵の拡大  
（\*英語学、文学、文化論、地域研究等も広義の映画英語教育として追加）
- 映画英語研究の知見と映画のデータの有効性の外部への発信
- 学会での娯楽的活動を排し、ワークショップ等の学術活動を追加
- 支部HP上に、啓蒙的な学術コラム集の構築
- ATEM内に競争的研究資金制度を設置
- STEMとの更なる学術的な交流を促進

次に新田理事より前年度の会計報告と本年度の予算案が示され、ともに承認された。

最後に、第2回となる優秀論文賞の授賞式が行われ、北海道支部所属の小林敏彦先生（小樽商科大学・教授）に賞状と副賞が授与された。（塚越博史）

## ■全国大会スナップ



開会式の倉田会長↑

開会式で挨拶する  
STEMのLee会長  
↓



←受付の様子。  
中央は  
高瀬九州  
支部長



←STEM参加者の面々と。  
前列左端が藤枝大会運営委員長、右端が横山広報委員、後列左から2人目が倉田会長  
（宿泊先ホテルロビーにて）

## 優秀論文賞 受賞のことば

小樽商科大学 小林俊彦

この度は、小生の研究論文“The Benefits of the CEG Typology Framework for Learners, Teachers, Researchers, and Textbook Writers”が光栄にも今年度の優秀論文賞を受賞させていただきました。皆様に心より御礼申し上げます。同論文は全文が、下記URLよりダウンロードできます。一読いただければ光栄です。

<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/handle/10252/529>

私は過去20年間余り、文科省検定済英語教科書の適正化のための談話分析や語彙の調査を行ってきました。口語の英語とはどのような特徴を有したものであるかを探る過程で、口語としてオーセンティシティ（真正性）を判断する基準や明確なリサーチツールが不在であることに気づきました。その必要性から整理し完成させたのが口語英文法類型フレームワーク(the CEG Typology Framework)です。

2012年から2013年にかけて、新指導要綱の下で出版された文科省検定済中学、高校の英語教科書20冊に掲載されている対話文と散文にどの程度口語英語の要素が含まれているのかを検証するために、このフレームワークを活用しました。結果は「平成25年度検定済新英語教科書の口語表現のオーセンティシティ検証と5つの緊急提言」



授賞式にて（左は倉田会長）

(<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/handle/10252/5217>)と題する論文に報告しましたので、こちらの方も是非ご一読ください。今後さらにこのフレームワークの活用の可能性を探っていこうと考えております。



↑懇親会での記念撮影（於：博多百年蔵）

（広報委員会）

## ■シンポジウムA（北海道支部企画）

「映画で時代の英語と文化を旅する —英語版日本映画の教育的活用—」

本シンポジウムのパネリストは、田口雅子（とわの森三愛高等学校）、細木健太（小樽商科大学大学院）、斉藤巧弥（北海道大学大学院）の3氏が務めた。テーマは英語版日本映画の教育現場での活用方法の提案で、リスニング指導をメインとしたものである。今回利用した作品は『となりのトトロ』（88）英語版で、複数の研究者が言及している「発音ができれば聞き取りが容易になる」という考え方をベースに仮説を立てて、田口先生が担当する高等学校での授業実践によってそれを検証した。



左から細木氏、斉藤氏、田口先生

EFL 学習者の英語音声の聞き取りを困難にしているものの一つに **assimilation** 等の音声変化があげられるが、この発表ではまず（1）音声変化の意識づけを行い、（2）音読による音声指導を施し、（3）歌唱アウトプット訓練によって効率的にトレーニングする、という流れでリスニング能力の向上の方法が計画されていた。英語能力の低い生徒も多いクラスということで、モチベーションへの温かい配慮もなされていた。同時に、英語運用能力の高い生徒の意欲・学力を維持・向上させるための工夫も散見された。

高等学校の現場で、週2回のカリキュラムの中、消化すべき教科書も使用しながら映画英語教育を実践することは容易なことではない。だが、この発表とプレゼンの中に組み込まれた授業動画を見る限り、提案者はこの課題を巧みに解決しているようである。この発表後の活発なディスカッションからも、この提案の有効性の高さが伺えた。（塚越博史）

## ■シンポジウムB（支部横断企画）

「映画の日本語字幕を英語教育に活かす」

今回企画された、支部横断シンポジウムでは「映画の日本語字幕を英語教育に活かす」というテーマで3つの発表がなされた。

まず西日本支部の豊倉省子先生（神戸女学院大学）による「字幕翻訳教育の実践と意義：21世紀に求められる仲介能力の養成を目指して」では、仲介能力“mediation”が英語教育の新たなニーズであり、1秒4文字とい



う制約のために、訳語は直訳から脱却し文脈理解を活かす訳へと発想の転換を促すことが必要であると指摘し、『素晴らしき哉、人生！』（48）を使用した指導例が紹介された。

次に、西日本支部の藤枝善之先生（京都外国語短期大学）が「日本語字幕で教える：英日対照言語学と会話的推移～戸田奈津子訳を教材に～」と題し、『ミセス・ダウト』（93）を使って文化差異のために直訳不可能なジョークの翻訳技法を紹介した。また『タイタニック』（97）のワンシーンから会話的推意



を踏まえた言内・言外の二重構造の訳し方も解説された。

最後に、北海道支部の松田愛子先生（翻訳者）による「字幕にならない英語たち：違いのわかる学習者になろう」では、学習者のモチベーションが向上するとした翻訳体験の実践例が紹介された。一例では、Crisco という日本になじみのない食用油脂ブランド名の訳出を含む



『ヘルプ』（11）のワンシーンで、原文、対訳、字幕、吹替を徹底的に比較しながら文脈理解を深め、理解度に応じて訳語を段階的に洗練させていくものだった。また授業内での字幕制作ソフト活用の提案もあった。（吉牟田聡美）

## ■シンポジウムC（九州支部企画：英語）

### "How to Use the Movies of Our Own Culture for English Education"

本シンポジウムでは、まず Julian Foster 先生 (Fukuoka University of Health Sciences) から、映画を観るための



ポイントの説明と具体的な活動例の報告があり、その後実際に学生による映画制作に繋げるための具体的な方法が紹介された。次に、David Haynes 先生 (Fukuoka City

Educational Authorities) から、映画の中の歌を利用し発音・リズム・イントネーション



を自然な形で学ばせる方法の提案があった。例として、『オズの魔法使』(39)や『チャーリーとチョコレート工場』(05)の中の歌を紹介された。Darcy De Lint 先生

(Fukuoka Jo Gakuin University Junior College) から、映画の中の冒瀆表現 (profanity) をどう扱うかという



問題が提起された。冒瀆表現は日常生活に溢れているが、様々な方法により表現を和らげることで、提示可能なレベルにすることができるとい

例が多数紹介された。最後に、Nikolai Nikandrov 先生 (Fukuoka University of Health Sciences) が、第3国



の映画を英語字幕や英語音声で利用する方法を提案された。字幕版は原書と比較するとかなり短い、内容はしっかり凝縮されていること、使われている文型が多様なことから教材として優れているという指摘であった。色々な切り口から映画の利用法を考えることが出来るシンポジウムだった。(松田早恵)

## ■シンポジウムD（北海道支部企画：英語）

### "Enjoying English and Culture of the Times in Movies: Making Use of Remakes and Classic Films in New Movies"

北海道支部の英語シンポジウムでは、「時代軸」と「文化の違い」をキーワードに3つの発表が行われた。

松田愛子先生（翻訳者）は“Introducing classic films through movie quotes and references to TV shows”と題し、時間軸を越えてTVドラマや別の映画のセリフに引用される映画の名セリフに着目、対話の流れにインパクトを与える引用例を示す指導法を提案した。



河上昌史先生（北野台中学校）は“Comparing original movies with movie remakes”と題して、『幸せの黄色いハンカチ』(77)と *The Yellow Handkerchief*(08)、『Shall we ダンス?』(96)と *Shall we dance?*(04)を用い、日本



映画とハリウッドリメイク版を比較することで、文化の違いから生じる新たな視点（構図の違い）を学習者に与えることを示した。

北間砂織先生（北海道医療大学）は“Learning by comparison along a time axis”と題し、時代背景の異なる映画を比較することで、伝達手段として用いるツール（固定電話→携帯電話→スマートフォン、手紙→eメール→SNS）やファッションなどの変化を例示。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』シリーズや『E.T.』(82)のオリジナルとリマスター版などを題材に、授業実践例を交えて解説した。



北海道支部のシンポジウムは、ひじょうに興味深いものであった。時代軸と文化の違いから生じる構図（表現、行動、背景など）の変化は、映画をどう観るかという視点を再考し、学習者にことばそのもののみならず、その背後にある文化について考える視点を提供するものであった。まさに「ことばは時代を映す鏡」ならぬ「映画は時代を映す鏡」と言える。(横山仁視)

## ■研究発表一覧

第20回全国大会の研究発表は下記のとおりである。タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。発表者の敬称は略する。

### 【Session 1】

- [1] 鈴木光代ほか（東京女子医科大学）  
映画を通して磨く談話能力－異論を唱える－
- [2] 田畑圭介（金沢学院短期大学）  
テレビドラマコーパスの作成法とその活用について
- [3] BIRMINGHAM David (Kwandong University)  
Mobile Assisted Language Use (MALU) – the Future of Second Language Learning Understanding: A South Korean University Perspective
- [4] RHO Yoon Ah (Mokwon University)  
Using a specific genre of TV dramas, with a focus on the legal series, Suits

### 【Session 2】

- [5] 小林敏彦（小樽商科大学）  
12 Angry Men を活用した人物表現の教え方
- [6] 西川真由美（摂南大学）  
映画で学ぶ「情報付加」を現す談話標識
- [7] IWASAKI Hirosada（筑波大学）  
Incidental Vocabulary Learning with a Subtitled TED Talk.
- [8] LEE Ji Hyun (Kookmin University)  
How to enjoy TV drama: Based on the depth of processing

### 【Session 3】

- [9] 角山照彦（広島国際大学）  
医療系クラスに使える映画の教材化に関する実例研究－『レナードの朝』を活用した EGSP アプローチ－
- [10] 國友万裕（同志社大学）  
21世紀のアメリカ映画と男性像
- [11] KLINGER Walter（滋賀県立大学）  
An Unexpected Journey to Different Cultures through Media
- [12] PARK Tammy (Dankook University)  
Leading Ideas in the Movies-Roles of EFL Teachers

### 【Session 4】

- [13] 山本五郎（広島大学）  
映画英語コーパスを用いた口語表現の研究－相槌表現のCoolについて－
- [14] DAUGHERTY Cindy（西南学院大学）  
The Power of Combining: Using Movies with Texts for the Development of ELS Learner's Academic Skills
- [15] KIM Hye Jeong (Kookmin University)  
You remember the story? : How to use a movie in a classroom

### 【Session 5】

- [16] 松中完二（九州産業大学）  
映画の台詞に見る固有名詞の意味理解と異文化理解について
- [17] 森永弘司（立命館大学）  
5年間の *Dead Poets Society*（邦題：『今を生きる』）を使用した授業実践を振り返って
- [18] KO Kwang Kyu (Kwandong University)  
The Hybrid Effects on Task-Based Learning

### 【ポスターセッション】

- ・城戸真由美（福岡女学院大学）  
コミュニケーション・イングリッシュにおける映画の動機づけ効果
- ・BARKER Lisa (Fukuoka Jo Gakuin University)  
Teaching History through Movies
- ・大木正明（大分工業高等専門学校）  
英語学習のための教授材料:NHK 英語教育番組の使用
- ・吉牟田聡美（聖学院大学）  
『アナと雪の女王』Frozen: Another Happy Ending



ポスターセッションの様子 ↑ →

## ■支部だより

### [北海道支部]

◆第20回記念全国大会においては、北海道支部は2つのシンポジウムを担当させていただきました。このシンポジウムの内容充実を目指し、支部会員が協力して研究活動に取り組めたことは支部の大きな財産となりました。

◆来春、3月21日(土)には、第4回の北海道支部大会を開催いたします。少し春めいた札幌で、映画英語教育の研究、実践の交流を行います。ご案内、発表の募集は11月の予定です。(支部長：秋山敏晴)

### [東日本支部]

◆東日本支部では昨年の全国大会を相模女子大で開催した後、例会を2回開きました。3月には映画『リトル・ダンサー』(00)を用いた教材研究、7月には映画『アナと雪の女王』(13)を用いた教材研究をしております。他には「英語学習者のストラテジー・ツリー」紹介、センダックの絵本『怪獣たちのいるところ』を用いた視覚表現研究など、映画以外にも扱いました。

◆11月末の支部大会については、支部HPを御覧下さい。(支部長：吉田雅之)

### [中部支部]

◆2014年度は、2回運営委員会を実施しました。

◆今年度の事業計画は主に、運営委員の改選、研究大会の実施、支部紀要の発刊ですが、運営委員の改選には時間を要しました。2014年の研究大会はエンターテインメント要素も取り入れ、10月4日(土)に金城学院大学サテライトで開催しました。支部研究紀要については、2年越しの計画となっておりますが、今年度3月には発行を予定しております。(支部長：諸江哲男)

### [西日本支部]

◆「第5回映画英語学ワークショップ」を6月21日(土)、約110名の参加者を以って京都外国語大学で開催しました。4件の研究発表の他シンポジウムでは、「統語論で読み解く映画の英語」をテーマに、小野隆啓先生(京都外国語大学)、藤本幸治先生(京都外国語大学)、杉村美奈先生(京都ノートルダム女子大学)にご発表いただきました。

◆第12回支部大会を11月8日(土)に兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパスで開催予定です。シンポジウムテーマは「『インビクタスー負けざる者たち』(09)徹底活用法」で、その他、研究発表と特別講演があります。

(支部広報委員長：横山仁視)

### [九州支部]

◆運営会議を以下のように実施しました。

第1回運営会議&新年懇親会： 1月26日(日)

第2回運営会議&夏期懇親会： 7月13日(日)

◆支部大会は、9月6日(土)、西南女学院大学にて開催しました。内容は研究発表、映画「レッド」試写会、字幕翻

訳家の戸田奈津子先生による特別講演などでした。

◆支部研究会活動としては、金星堂、ミネルバ書房より著書を出版する予定です。(支部長：高瀬文広)

## ■委員会だより

### [国際交流]

◆5月17日(土)に蔚山(ウルサン)で開催された、姉妹学会のSTEM第18回全国大会にはATEMから17名が参加、7件(研究発表4件、模擬授業ワークショップ3件)の発表を行いました。

◆8月20日(水)の全国大会では、STEMから18名の参加を得、特別発表を含む7件の研究発表がありました。大会終了後は、九州支部のお計らいで、国登録有形文化財の博多百年蔵で懇親会が催され、STEMの皆さんとの交流を一層深めることができました。

◆来年度のSTEM国際大会(第19回)は、2015年5月16日(土)にソウルから約80km南に位置する天安市(チヨナンシ)にて開催予定です。研究発表の申し込みについては、ATEMウェブサイトのトップ右側メニュー「STEM大会発表 & 紀要投稿」に掲載します。(委員長：井村誠)

### [広報]

◆広報委員会は年2回発行のNewsletter作成が主な役割でしたが、過日、理事会にてウェブサイト上の広報活動に積極的に動画を利用するという方針決定がされたことに伴い、委員会としてどのようにICT部門と連携していくか、業務サポートができるか検討が進められております。

◆お忙しい中、今号にご寄稿くださいました皆様、ご協力ありがとうございました。(委員長：松田愛子)

### [紀要編集]

◆まず、今回の紀要に論文のご投稿くださいました会員の皆様には、数々の玉稿をありがとうございました。現在皆様の論文は査読者による査読段階です。結果のお知らせまで少しお待ちください。

◆前号より文字サイズを大き目にしていますが、読みやすさはいかがでしょうか。また、要旨の後にキーワードを挿入するよう変更をしましたが、お役立ち頂けましたでしょうか。ご意見などありましたら委員会までお寄せください。(委員長：塚越博史)

### [大会運営]

◆本号の特集のように、過日、第20回記念全国大会が開催されましたが、悪天候にもかかわらず、STEM会員を含む110名の参加者を得、成功裏に終わりました。今回は、ブライアン・バークガフニ教授(長崎総合科学大学)による特別講演の他、STEM会員による特別発表、各支部による4つのシンポジウム、18件の研究発表、4件のポスター発表があり、このうちの13のセッションは、英語による発表でした。(委員長：藤枝善之)

## ■決算報告

## 第20期 映画英語教育学会【決算報告書】

2013年4月1日～2014年3月31日

収入の部			支出の部		
前年度繰越		1,163,520	大会開催費	大会開催総費用	553,835
会員年会費	2011年度分@5,000 2	10,000	紀要発行費	紀要印刷費(抜刷り含む)	432,285
	2012年度分@5,000 30	150,000	ニューズレター発行費	ニューズレター印刷費	35,700
	2013年度分@5,000 288	1,440,000	ホームページ維持費	プロバイダー基本料金他	42,210
	2014年度分@5,000 20	100,000	研究活動費	支部活動助成	250,000
賛助会費	2013年度分@10,000	70,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	89,930
	2013年度分@5,000	5,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	106,233
	2014年度分@10,000	10,000	諸会費	言語系学会 年会費	10,000
	2014年度分@5,000	5,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	234,440
大会参加費	会員@1,000 72	72,000	雑費	振込料他	6,485
	非会員@2,000 22	44,000	前期未払金		140,062
大会懇親会費	@4,000 51	204,000			
書籍売上	紀要・著作権ハンドブック	15,500			
受取利息		108			
書籍送料		640			
小計		3,289,768	小計		1,901,180
未払金		204,442		みずほ銀行	1,271,819
				郵便振替口座	195,516
				小口現金	125,695
				翌年度繰越金	1,593,030
合計		3,494,210	合計		3,494,210

※個人会員 417名・賛助会員 9社

2014年6月吉日 上記の通り相違ありません

会計監査 秋月 剛



# ATEM Clapper Board

1) 第20回記念全国大会へご出展いただいた賛助会員は下記の皆様です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。(50音順)

記

Well(株) オックスフォード大学出版局(株)  
 (株)金星堂 (株)近代映画社  
 コンパスパブリッシングジャパン(株)  
 チェル(株) (株)成美堂

2) 2014年会費(4/1～翌3/31)5000円が未納入の会員様は、郵便局備え付けの振込用紙(青色)をご利用の上、下記口座へ納入ください。個別の納入状況は、ウェブサイト内「会員情報システム」で確認できます。

※2年以上滞納された場合には、会員資格を失いますのでご注意ください。

記

ゆうちょ銀行：00820-3-1477  
 口座名義：映画英語教育学会事務局  
 (通信欄に「〇〇年度年会費」と明記ください)

事務局

## <賛助会員一覧> (2014.9.9現在)

株式会社朝日出版社  
 アルビス株式会社  
 Well 株式会社  
 オックスフォード大学出版局株式会社  
 株式会社金星堂  
 株式会社近代映画社  
 コンパスパブリッシングジャパン株式会社  
 株式会社松柏社  
 株式会社成美堂  
 センゲージラーニング株式会社  
 ソースネクスト株式会社  
 チェル株式会社  
 東京書籍株式会社北海道支社

## ～編集後記～

◇今年の全国大会では、Newsletter 掲載用写真のほかに、新たな試みとして依頼された、ウェブサイト掲載用の会長挨拶の動画を委員会で収録しました。  
 ◇今号掲載用の写真の一部をご提供をいただきました ICT 専務理事の新田晴彦先生、九州支部の藤山和久先生に、心からお礼申し上げます。  
 ◇次号は2015年4月に発行予定です。

[広報委員会] \*松田愛子(北海道)、延原みか子(東日本)、井土康仁(中部)、横山仁視(西日本)、秋好礼子(九州) \*委員長